

基本情報

時間割コード／Course Code	135175
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
曜日・時間／Day and Period	金1
開講科目名／Course Name (Japanese)	【社会】平和の問題を考える
開講科目名(英)／Course Name	Peace Studies
ナンバリング／Course Numbering Code	13LASC1V700
授業形態／Type of Class	講義科目
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	1,2,3,4,5,6年
担当教員／Instructor	北泊 謙太郎
メディア授業科目／Course of Media Class	非該当

※外部公開用シラバスについて

このページは、外部公開用に、教室等の一部項目が非表示になっています。

ログイン可能なユーザは、[KOAN](#)からシラバス参照することで、当該項目が表示されます。

※メディア授業科目について

授業回数の半数以上を、多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で行う授業を「メディア授業科目」としています。

学部学生が「メディア授業科目」を卒業要件に算入できるのは60単位が上限です。

なお、非該当の場合であっても、メディアを利用した授業を実施する場合があります。

基本項目

履修対象／Eligibility	全学部
備考／remarks	

詳細情報

授業サブタイトル／Course Subtitle	平和の探求
開講言語／Language of the Course	日本語
学習方法／Learning Methods	聴講・視聴: 講義・教材・実演を視聴して学ぶ (例: 講義の対面受講、オンデマンド教材視聴)
	読解: 本や論文を読解して学ぶ(例: 論文要約、ウェブ情報の読解)
	討論: 学生同士や教員との間で質疑応答や意見交換を行うことで学ぶ(例: ペア・グループディスカッション、オンラインでのチャット、論文個別指導)
授業の目的と概要／Course Objectives	調査: 本や論文から情報を収集したり、フィールドワークでデータを収集・分析して学ぶ (例: 先行研究整理、フィールドワーク)
	1) 戦争、環境破壊、貧困、差別、DVなどのあらゆる暴力を廃絶することをめざして、学際的に平和を探究する学問、「平和学」を知る。

- 2) さまざまな暴力が生み出される原因、暴力のメカニズム、暴力を克服する方途が科学的に解明されることを知る。
- 3) 平和のために学問がなすべきことを学ぶ。
- 4) 平和な未来を築くために自分たちのなすべきことを考える。

学習目標／Learning Goals

1

戦争ばかりでなく、私たちの周りにあふれる暴力を知り、現代における自然と人間社会理解の到達点から平和の在り方を考えられるようになる。

履修条件・受講条件／Requirements, Prerequisites

本授業だけでなく、サイエンスカフェやフィールドワークにも主体的に参加する、意欲のある学生の受講を求めます。

本授業はオムニバス授業であることから、毎回授業に関するレポートが出されます。そのレポートが成績評価の対象となることから、毎回出席することが求められます。ただし、感染症や忌引等のやむを得ない理由の場合は履修上不利としないよう配慮します。なお、レポートは授業中に作成することのないようにお願いします。

出欠席及び受講に関するルール／Attendance and Student Conduct Policy

授業計画／Class Plan

題目:平和とは何か

第1回

「平和」をめぐる国内外の様々な問題について指摘したうえで、平和学の基本的な内容を概説します。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.1-10を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

第2回

題目:近代日本の戦争と戦場の実態

戦争で他人を殺害することがいかに正当化されていたのか、近代日本の戦争を事例に解説します。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.13-26通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:ウクライナ侵攻に翻弄される人々

ウクライナ戦争に派遣されるロシア国軍の民族的多様性について、

第3回

Mongolianを事例に説明します。
授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.140-154を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:戦争と科学～核兵器の開発の歴史を中心に～

原子核物理学の立場から、核・核エネルギー・核兵器の基本的な仕組み

第4回 と核兵器開発の歴史を概説します。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.155-170を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:沖縄戦から考える、沖縄から考える

沖縄と「本土」の戦争経験ならびに戦争認識を比較することで、沖縄戦

第5回 の現代的意味を考えます。

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:サル社会の葛藤と利他性の起源

人間の本性は暴力的か平和のかー同じ共通祖先をもつサルの行動から考察します。

第6回

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:貧困の自己責任論

ビッグイシュー日本の皆さんをゲストにお招きして、私たちの身近に存在する貧困の問題を考えます。

第7回

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:平和のために哲学は何ができるか？

非暴力・市民的不服従の哲学思想の系譜について、カンディーやアウンサンスーチーなどを事例に学びます。

第8回

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.262-278を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

第9回 題目:グループ討論

身近な暴力を発見する

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:差別する歴史学、平等を求める歴史学～ベトナムからの問いかけ～

歴史学と歴史教育の現在地と問題点を確認し、その上で現代史上のベトナムと日本の関係を学ぶことの知的

第10回 意味を考えます。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.220-232を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:ドイツに見る「過去の克服」と歴史和解

ドイツと日本の比較から、両国における歴史（戦争）認識や戦後補償が

第11回 どのように展開したのかを考えます。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.87-103を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:ジェンダーの視点から考えるケアと政治

ケア論の立場から、男性的人間観の再構成や社会的不平等の見直しという問題を考えます。

第12回

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:アジア・太平洋戦争における日本軍兵士と故郷

長野県飯田市を事例に、アジア・太平洋戦争を地域史・個人史の視点から考察します。

第13回

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

第14回 題目:気候変動と平和

現代の国際社会で深刻化する気候変動の問題を取り上げ、地球的課題の解決方法を模索します。

授業時間外学習：事前学習では、教科書pp.186-201を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

題目:グループ討論

平和のために私たちは何をなすべきか

第15

回

授業時間外学習：事前学習では、授業前に配布するレジュメや資料を通読しておくこと。事後学習ではレポート課題に取り組むこと。

教科書・指定教材／Textbooks

木戸衛一（編著）／平和研究入門／大阪大学出版会／2014年

参考図書・参考教材／Reference

木戸衛一・長野八久編著『平和の探求 暴力のない世界をめざして』（解放出版社、2008年）

日本平和学会編『平和を考えるための100冊＋α』（法律文化社、2013年）

THE BIG ISSUE JAPAN ビッグイシュー日本版

成績評価／Grading Policy

※学習目標の番号にカーソルをあてると、その学習目標の全文が表示されます。

評価方法／ Evaluation Methods	レポ ー ト・ 論文
学習目標1	○
評価割合 (%)／ Allocation of Marks	100%

**成績評価に関する補足情報／Additional Information on
Grading**

毎回の授業で与えられる課題へのレポートによって評価される。なお、本授業に関する講演会やシンポジウム、サイエンスカフェ、フィールドワークへの参加とそのレポートを提出すれば、成績評価に加算される。

特記事項／Special Note

各回の授業ではプリントを配布しますが、回によってはノートパソコンの持参を求める場合があります。ノートパソコン持参の場合は、CLEで連絡します。

**実務経験のある教員による授業科目／Course Conducted by
Instructors with Practical Experience**